

伝音性難聴の原因で最も多い慢性中耳炎。薬で一時的に炎症を抑えることもできるが、根本的な治療は手術になる。期待できる効果や術後合併症について、中耳の手術に詳しい宝塚市立病院耳鼻咽喉科の武藤俊彦主任医長(39)に聞いた。

―手術の対象は。

「鼓膜に穴(穿孔)がある場合です。過去に耳だれがあったか、現在耳だれがある人で、これらの人は今後も耳だれが生じる可能性があります。穿孔があると、外から雑菌が入り込み、それが炎症を起こす原因になるからです。子どもの急性中耳炎は風邪をひいたときなどに鼻を通じて中耳に細菌やウイルスが入るのが原因。一方、慢性中耳

## 宝塚市立病院耳鼻咽喉科

### 武藤俊彦主任医長に聞く

炎は多くが耳の外から入ってきています」

「また、穿孔がある人が補聴器を付けると耳だれが生じやすく、耳だれで補聴器がダメになることも。基本的に鼓膜に穴が開いた状態のまま、補聴器を装着するよう勧めることはありません」

―どのように治療するのか。

「鼓膜が元に戻れば聴力の改善が期待できる場合、穴をふさぐだけの手術になります。これを『鼓膜形成術』と呼びます。中でも接着法という術式では耳の後ろを切開せず、耳の穴から処置をします。穴が開いた部分から『土台』を入れて、鼓膜の

裏から当てます。ただ、鼓膜がすぐ横を顔面神経が通っているので顔面神経まひになることも。ただ、いずれもまれな合併症で、1000人に2人くらい

の確率です」

「味覚を感じる神経も耳小骨近くにあるので、舌のしびれや味覚障害が起こることがあります。神経自体は残せることが多い、そうした障害が出てても9割以上は数カ月で治ります」

慢性中耳炎の手術

# 8割が聴力改善

―期待できる効果は。



「中耳腔(くう)の機能は小学校低学年くらいまでに発達します。大人でも、幼少期に中耳炎を繰り返したケースが多いです」と話す武藤俊彦主任医長(宝塚市小浜4)

―鼓室形成術に伴うリスクは。

「中耳を触ることで、その奥の内耳にまで影響を及ぼしてしまふことが考えられます。内耳に原因がある感音性難聴や耳鳴り、めまいなどが起こり得ます。年以降に行います」

「鼓膜を閉じると耳だれが止まります。聴力の改善率は鼓膜を張るだけの手術なら9割以上、手術全体では8割前後です。鼓膜は2カ月でふさがり、炎症を抑えるのに2〜3カ月かかるので、聴力の評価は半年以降に行います」